

ID :
氏名 :

寛骨臼移動術手術説明・同意書

手術名： ☐ みぎ ☐ ひだり 寛骨臼移動術

手術日： 20 年 月 日

別紙「寛骨臼移動術手術説明書」を使用にて説明いたしました。

私は上記の医療行為についてその必要性和内容、また、状況に応じた内容の変更、起こり得る危険性について説明いたしました。

説明日

説明担当医師

同席者・確認者

私は上記の医療行為の説明を受け、実施に同意いたします。

同意日 20 年 月 日

患者署名

家族等署名

(続柄：)

本人、家族が署名できない理由

職種 ☐ 医師 ☐ 看護師 氏名

ID :
氏名 :

寛骨臼移動術手術説明書

1. 診断名（病名および症状） ☐ みぎ ☐ ひだり 寛骨臼形成不全

大腿骨の頭の部分とその屋根に相当する骨盤（臼蓋）からかなりはみだしています。これは臼蓋側の出っ張りが通常より少ないためです。そのため、体重を支える骨や軟骨の面積が通常よりかなり狭い状態になっています。関節を構成する骨の表面は軟骨により被われていますが、このような状態では軟骨が減ってきてしまい、本来の滑らかな関節の動きが無くなり、やがて痛みが生じてきてしまいます。今後このような状態を放置しておく、ますます軟骨がすり減り、痛みの増悪や関節の変形が生じてしまいます。

2. 手術の目的 今回予定している手術は、この臼蓋を外側に張り出させ、十分に骨頭が自分の関節軟骨で被われるようにして、適切な形状の関節にすることです。

3. 手術実施内容 骨頭に沿って臼蓋を一旦切ってしまい、切った骨盤を骨頭に沿って外側に回転させ引き出すというものです。創は腸骨（腰骨）の周囲に約8cmできます。骨を移動した部分には一時的に骨と骨の間に隙間が生じます。この隙間には人工骨を挟み込みます。また、骨を移動した部分の固定には吸収性のスクリューを用います。自然となくなるスクリューですので、あとで抜く必要がありません。ただし、骨の形や硬さによって、このスクリューが使えないこともあります。その場合は通常のスクリューを使って固定します。術後3週から少し体重をかけ始め、術後5週で体重の半分をかけるようにすれば松葉杖をつけて退院することができる予定です。

4. 予測される手術の効果と、手術により起こり得る危険性・合併症、副作用など

手術により疼痛が軽減し関節症の進行を遅らせることができます。合併症は感染があり、もし生じた場合、放置すると骨髓炎や敗血症が生じることがあるため、洗浄のための手術や抗生物質の長期投与が必要となります。手術中に約600cc、手術後も約600ccの出血が予想されます。出血による貧血に対しては、手術前に貯めておいた自己血を輸血することにより対処できるとおもわれます。しかし、予想以上に出血し、極度の貧血が生じた場合には、日赤の血液を輸血することになりますので御了承ください。手術後、大腿の前側にしびれが出現することがあります。これは、外側大腿皮神経が手術中に刺激されたことからくるもので、回復するまでには半年から1年はかかってしまうものとおもわれます。手術の際に骨盤近くにある動脈を損傷する可能性があります。その際には動脈からの出血を止めるために追加の治療が必要になることがあります。手術のあとに生じる最も重大な合併症は血栓塞栓症です。肺塞栓は肺の動脈に血栓（血のかたまり）がつまることにより生じます。もし、大きな血栓により太い肺動脈がつまってしまうと突然の呼吸困難により生命の危険が生じます。生命を脅かすような、危険な肺塞栓が生じる確率は約1%とされています。

治療が必要な血栓が生じている場合には、血栓をできにくくする薬剤や血栓を溶かす薬剤を1週間ほど持続的に点滴することになります。
手術で関節の形状が改善されても、長期的に関節症変化が生じる可能性はあります。

5. 予定する手術以外に考えられる代替可能な医療行為（内容・効果・危険性）
および予後

保存的治療で杖の使用、筋力訓練などで一時的な安定は得られますが、
将来的に関節軟骨の変性が生じて関節症変化が進行してしまいます。

6. 同意を撤回される場合について

同意された場合でも、実施までの間はいつでも撤回することができます。
また、その医療が継続して行われる場合にも、やめることができますが、やめることの影響
について主担当医から十分な説明を受けた上でご判断をお願いいたします。

7. セカンドオピニオンについて

治療方針を決める上で主担当医以外の意見をお聞きになりたい方は、必要な資料や検査結果を
用意しますので遠慮なくご相談ください。

ご不明な点がございましたら、主担当医までお問い合わせください。
連絡先：河北総合病院 電話：03-3339-2121（代表）